

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果から（和歌山県）

1 教科に関する調査結果

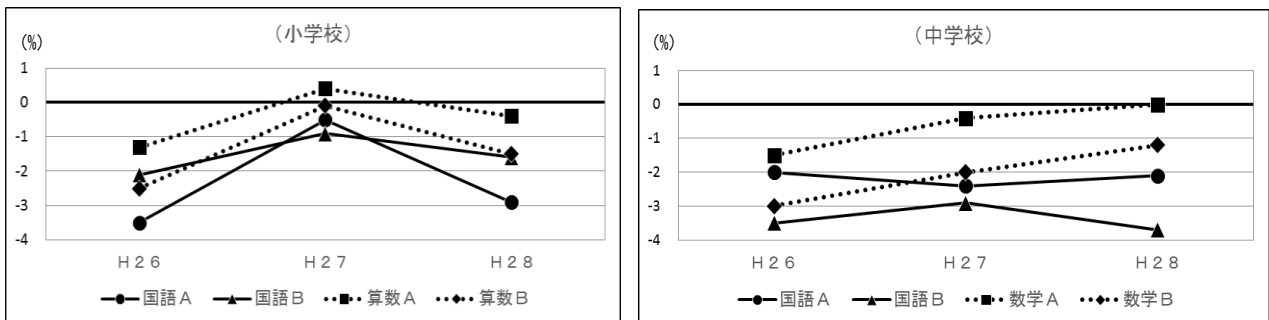
(1) 和歌山県（公立）と全国（公立）の平均正答率

単位：％

	小国A	小国B	小算A	小算B	合計	中国A	中国B	中数A	中数B	合計
県	70	56	77	46	249	74	63	62	43	242
全国	73	58	78	47	256	76	67	62	44	249
差	-3	-2	-1	-1	-7	-2	-4	0	-1	-7

※学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示す。【平成28年度文部科学省】

(2) 和歌山県（公立）平均正答率の全国（公立）平均正答率との差の推移



(3) 調査結果の特徴

pt：ポイント（正答率の差）

小学校の各教科の平均正答率は、平成27年度と比べて全国平均との差が広がったが、平成26年度の差と比べると縮まっている。中学校は、国語Bを除き、平成27年度と比べて全国平均との差が縮まっている。

●国語の課題

- ・小学校、中学校ともに、特定の設問について全国との差が大きく、平均正答率に影響した。
 小学校国語A：ローマ字を読む【全国差 -9.9pt】ローマ字を書く【全国差 -7.2、-8.4pt】
 中学校国語B：課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える【全国差 -9.2pt】

○算数・数学の改善

- ・授業改善を進めることで、中学校は年々全国平均との差が縮まり、平成28年度は数学Aが全国平均と同等となっている。小学校は平成27年度と比べて全国平均との差が広がったが、平成26年度と比べると全国平均との差は縮まっている。

○無解答率の減少

- ・小学校のすべての教科と中学校の数学Aは、無解答率が全国平均より低くなった。
 中学校の国語A・B、数学Bについても無解答率の全国との差が縮まっている。

2 質問紙調査の結果

P：ページ、pt：ポイント（回答率の差）

○学校の指導・取組の改善

- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動が充実し、授業時間内に学習内容の定着が確認できている。
 【昨年度差 小学校+3.5pt、中学校+6.0pt】→概要P6(4)
- ・ノートに学習の目標やまとめを書くことが定着し、学習に取り組む姿勢が向上している。
 【昨年度差 小学校+5.2pt、中学校+7.6pt】→概要P6(5)

●学習に対する関心・意欲・態度の課題

- ・「国語が好き」と回答する子供が少なく、国語の学習に対して、興味や関心を十分持てていない。
 【全国差 小学校-2.7pt、中学校-7.5pt】→概要P5(1)

●家庭学習の課題

- ・休日に全く勉強しない子供の割合が高い。
 【全国差 小学校+4.3pt、中学校+7.1pt】→概要P9(14)